

2023年9月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 9月えんだより

9月の聖句「人はパンだけで生きるものではない。」

ルカによる福音書 4章 4節

今年の夏は、非常に厳しい暑さが続いています。気象庁によると「125年間で最も異常で圧倒的な暑さ」となっているそうです。また、この暑さと共に、台風以外の要因での大雨による水害も多く発生しています。このような暑さがまだしばらくは続きそうですが、様々な工夫を凝らし、子どもたちと共に残りの夏を楽しみつつ、暑さを乗り越えていければと思います。

6月の園だよりでも少し触れましたが、朝の連続テレビ小説「らんまん」が様々なところで話題になっているようです。このドラマを見ていると、何となく懐かしい気持ちが出てきます。主人公一家の「十徳長屋」の暮らしを見ていると、子どもの頃暮らしていた町を思い出すのです。「困ったときはお互い様」と助け合いながらの生活を見ていると、親が買い物に行く時などに子どもを預け合ったり、ちょっとしたもののおすそ分けがあったり。また、おつかいに行ったときに少しお金が足りなくても、「また今度持ってきてくれたらいいよ。」と、品物を渡してくれた近所の豆腐屋さんなどなど。そのように、助け合い、支え合って暮らしていた様子とつながったのだと思います。このような助け合い、支え合う暮らしは、大人だけでなく子どもたちの世界にもあったように思います。近所の子どもたちが集まると様々な年齢の子どもたちが一緒になって遊んでいました。野球では、1年生は球を転がしてもらって打ったり、1塁ベースを近くしてもらったりと年齢にあったハンディをもらうことで一緒に楽しむことができました。子どもたちは、皆が楽しんで遊ぶためのルール作りの天才だったように思います。

ドラマ「北の国から」などで有名な倉本聰さんが、あるテレビ番組で「戦後の日本は経済のことばかりで70年やってきた。」と語られたということを目にしたことがあります。戦後の経済成長の中で、多くの人々が「パン」という「体の糧」は手に入れることができました。一方で、「心の糧」は十分に得られたのでしょうか。

イエス様は、40日間の断食の後、サタンから「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」と言われました。これに対して、「人はパンだけで生きるものではない。」と答えられました。そして、「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」と。その言葉の一つに「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。」という言葉があります。「らんまん」の主人公一家や十徳長屋の住民たちが、支え合い、助け合って力強く生きたように、神の口から出る一つ一つの言葉を「心の糧」として、力強い歩みができるように励みたいと思います。

9月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	あそぼう	いっしょに
月の願い	*興味を広げ、いろいろなあそびを試してみたり、身体を動かしたりしてあそぶ楽しさを感じながら過ごしてほしいと思います。	*友だちと一緒にあそぶ中で、「たのしさ」や「くやしき」「よろこび」「むずかしき」など友だちと一緒にだからこそ感じられる経験をたくさんしてほしいと思います。
讃美歌	「ちから」 幼児讃美歌Ⅱ15	「ちから」 幼児讃美歌Ⅱ15